

おかいものをしよう

| 単元 | 数を数える たし算とひき算のひっ算(1) | 対象学年 | 特別支援 |
|-----|--|------|------|
| ねらい | 買い物をするという場面において、個々の能力に応じて、ものを数えたり、たし算・ひき算を筆算で計算したりすることができるようにする。 | | |

1 準備するもの

教師：果物の模型，エプロン，買い物かご，果物の料金表，レシート（筆算の計算用紙）

果物を数えるトレイ

児童：筆記用具，おもちゃのお金

2 学習のしかた

(1) 児童と教師を，店員役とお客さん役に分ける。

※写真①では，児童が店員，教師がお客さん。

(2) お客さんが2種類の果物を注文する。

※教師がりんごを2こ注文した場合は，写真

②の中の「2」が書かれたトレイを児童に差し出す。児童Aは，トレイにりんごを2こ置いてから，そのりんごを買い物かごに入れる。

(3) 店員が合計代金を計算する。児童Bがお客さん役のときには，お釣りを計算する。

※児童は③の料金表を見て，合計代金を筆算で求める。筆算は④のように，レシートに記入する。

(4) お客さんが代金を支払う。

(5) 役割を交代しながら，繰り返す。

※⑤，⑥は役割を交代した様子。



写真①

3 学習上の留意点

児童A：2年生。数字のカードを見て，教師に続いて数字を発音し，数字の分だけ磁石を置く学習を行って，数の概念が会得できるようにする。本単元では，1～3までの数を覚え，その数の分だけ物を置けるようになることを目指す。

児童B：2年生。2年生と同じ進捗で学習を進めている。たし算やひき算の計算問題はおおよそ自分の力で解くことができる。本単元では，筆算を使って合計代金やお釣りを求めることを目指す。

<児童Aに対して>

- ・店員とお客さんの役割の違いを感じることができるよう、店員役にはエプロン、お客さん役には買い物かごを用意する。
- ・児童Aが②のトレイに果物を置くときには、「1こ、2こ」と教師が声を出して数えていく。
- ・児童Aがお客さんとなり、注文するときは、数字カードを見せたり、指で数字を表して見せたりして、できるだけ児童Aの意思で注文ができるように声をかける。
- ・お金を渡す、代金を伝えるなど、果物を数えること以外にも、児童Aができる活動を増やす。



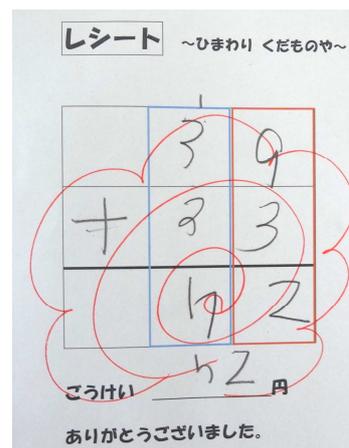
写真②

<児童Bに対して>

- ・③、④を用いて筆算をする際、十の位から計算してしまったときには、一の位から計算することを伝えて思い出させる。
- ・児童Bが店員のときには、渡したお金が代金と合っているか確認させる。

| | 1こ | 2こ | 3こ |
|-----|-----|-----|-----|
| りんご | 11円 | 22円 | 33円 |
| バナナ | 12円 | 24円 | 36円 |
| いちご | 13円 | 26円 | 39円 |
| レモン | 14円 | 28円 | 42円 |
| ぶどう | 15円 | 30円 | 45円 |

写真③



写真④

- ・お釣りを計算する場面をつくるため、お客さんとなった児童Bには、1円玉と5円玉は持たせないようにする。



写真⑤



写真⑥

4 学習の効果

- ・2名の児童は学習に対する集中力が続かないことが多いが、果物屋さんという場面を設定したことで、楽しみながら学習に取り組み続けることができた。
- ・学習内容が異なることが多い2名の児童が、協働して学習ができる機会を作ることができた。児童Bが児童Aに対して、優しく声をかける姿、児童Aが児童Bと楽しみながら学習に取り組む姿を見ることができた。
- ・児童Bがお客さんとなったとき、合計代金に対してちょうどのお金を支払うことができたときがあった。児童Bは「ちょうどだった。おつりなし。」と話していた。お金の支払い方は、児童が生活していく上で欠かせない大切なスキルとなることを実感できた。